

平成 22 年度第 1 回出雲市入札制度等監視委員会

議事概要

開催日及び場所	平成 22 年 5 月 18 日（火）15 時 00 分～17 時 10 分 出雲市役所 5 階 入札室	
委員	委員長 野村 泰弘（島根大学教授） 委員 河原 莊一郎（松江工業高等専門学校教授） 周藤 滋（弁護士） 武田 睦弘（出雲市自治会連合会会長） 横田 笑子（税理士）	
審議対象期間	平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日	
報告事項	（1）入札方式別発注工事の状況について （2）指名停止の運用状況について （3）低入札価格調査制度の運用状況について （4）苦情処理の運用状況について （5）前回の宿題項目について	
審議事項	抽出案件（3件）	備考
	随 意 契 約	1 .平成 21 年度 出雲環境センター設備整備工事（後期） 2 .大津 29 号線 道路改良工事 3 .湖陵地域石谷中外 4 中継ポンプ施設遠方通報装置修繕工事
		抽出の考え方 （抽出担当 周藤委員） ・随意契約は入札の裏返しという問題意識から、随意契約を取り上げた。具体的には、随契理由が他と違うもの、金額の大きいもの、類似案件の多いものを抽出した。
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申または勧告の内容	なし	

【報告事項について】	
意見・質問	回答
<p>(4) 苦情処理の運用状況について回答は文書でおこなうのか。評点の説明は、請求があればどこに対してもしているのか。説明することで支障はないか。</p> <p>(5) 前回の宿題項目について金額の低い随意契約の場合、大きな工事を細分化して随意契約しているような恐れはないか。そういうことは、どこでチェックしているか。複数年に渡る工事はどうか。</p> <p>連続して落札している業者があるが、地域性(地元業者)ということもあるのか。</p>	<p>文書で行っているどこに対しても行っている。</p> <p>支障はない。今後の品質向上に資するため、積極的に説明している。</p> <p>細分化して随意契約を行っているということはない。また、契約書類は全て契約検査室を通るので、そこでチェックしている。複数年に渡る工事については、最初に予算配分等の計画を作成したうえで発注している。そういうことも考えられる。</p>
【審議事項について】	
1) 平成21年度 出雲環境センター設備整備工事(後期)	
意見・質問	回答
<p>業者の倒産時等、万が一の場合どのように考えているか。</p> <p>当初設置した業者と異なる業者がこのような業務に入ってきた場合はどうなるか。</p> <p>施設完成後、当初施工業者が事業を分割し、関連子会社が引き継いでいるとのことだが、契約の際に、市としてどのような判断、手続を経て、それを認めたのか。</p>	<p>市の直営、あるいは同様な業務を行っている会社で可能かどうか検討する。</p> <p>他県で例があったが、数ヶ月で行き詰ってしまったと聞いている。</p> <p>経緯をまとめて別途報告する。</p>
2) 大津29号線 道路改良工事	
意見・質問	回答
<p>下水道工事と一緒にして、1つの工事として発注はできなかったのか。</p> <p>100%の落札率だが、問題はなかったか。金額が漏れているというようなことはないか。</p>	<p>それぞれの工事予算の管轄が違うのでできなかった。</p> <p>落札率が100%になったのは偶然。金額が漏れているということはない。</p>

3) 湖陵地域石谷中外 4 中継ポンプ施設遠方通報装置修繕工事	
意見・質問	回 答
<p>業者の倒産時等、万が一の場合どのように考えているか。</p> <p>今回採用している FOMA 方式がこの先ずっと続くとは考えられない。そのところはどうか。</p>	<p>出雲市以外県内 14 市町でも使用しており、業者に対し、共同で万が一の場合のシステム継承を働きかけている。また、システム維持に必要な情報を業者に求めていきたい。</p> <p>通信方式は国の方針によって変わると考えている。永遠に続くものとは考えていないが、概ね 10 年以上は続くと考えている。</p>
<p>3) 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回開催日 平成 22 年 11 月 (日時は別途調整) ・ 審議案件の抽出は武田委員が担当し、抽出方法は無作為とする。 	